

原書で読む

『グリム童話』 その語彙と背景

大野寿子／福元圭太



Kinder- und Hausmärchen gesammelt durch die Brüder Grimm

原書で読む

『グリム童話』
その語彙と背景

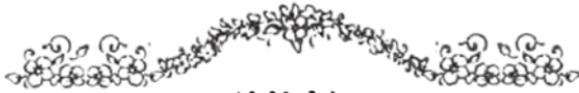
大野寿子／福元圭太

Sieben Grimsmärchen im Original
Ihr Wortschatz und Hintergrund

herausgegeben

von

Hisako Ono und Keita Fukumoto



はじめに

不思議なファンタジー世界を描いた Disney アニメーション『白雪姫』（1937年）や『塔の上のラプンツェル』（2010年）の原作はグリム童話です。一方、桐生操『本当は恐ろしいグリム童話』（1998/99年）で再考察の対象となり、Sound Horizon『Märchen』（2010年）のイメージソースとして着目されたのもグリム童話です。夢のようなキラキラした側面と残酷でグロテスクな側面。この相反する世界観を併せ持つのがグリム童話の物語世界なのです。もしかして子どもの頃読んだ絵本の中にも、ワクワクしながら主人公に感情移入していた話があったのではないのでしょうか。そんな物語の本当の姿を見たい、できれば原文ドイツ語で読みたいと思う方々のために、教科書と単語帳と雑学本のハイブリット形式で編まれたのが、本書『原書で読む「グリム童話」その語彙と背景』です。

ドイツ語の語彙力や文法力をつけたいという語学的向上心と、メルヒェンの成り立ちや背景に触れながら歴史や文化を学びたいという知的探求心の両方を満たすべく、①ドイツ語原文テキストと、それを読むのに必要な②語彙パート、知って得する③雑学パートを見開き頁に配しました。和訳テキストは存在しませんが、①②③を照らし合わせながら読み進めると、自分自身で翻訳することができます。完璧な翻訳でなくとも、なんとなくの理解でもいいのです。その体験を繰り返すことで、語学力と文化理解力が少しずつついていくはずですよ。

テキスト配分上、③の「雑学メモ」を割愛せざるを得なかった頁もありますが、その分、②を補う「文法メモ」や③を補う「コラム」を適宜配しました。クラシックな挿絵と共にお楽しみいただければ幸いです。

さて、『グリム童話』の本当の名前は、『子どもと家庭のメルヒェン集』（*Kinder- und Hausmärchen*, 略称 KHM）。ヤーコブ・グリム（Jacob Grimm, 1785-1863）とヴィルヘルム・グリム（Wilhelm Grimm, 1786-1859）というグリム兄弟が、ドイツに古くから伝わる伝承を収集刊行したものです。ですから、創作文学ではなく伝承文学ということになります。二人は、文学、言語学、法学、歴史学、民俗学等の研究をてがけた学者であり大学教授。彼らの諸研究の根本理念は、「いにしへのもの」と「ドイツ的なもの」の追求にあり、伝承文学の収集、修復、保存もその一環だったのです。ドイツで最大の語彙数を誇る『グリムのドイツ語辞典』（*Deutsches Wörterbuch von Jacob und Wilhelm Grimm*）の編纂者という言語学者の側面は、日本ではあまり知られてはいません（存命中に完成したのは F の途中まで）。

そんな学者兄弟が編んだ『子どもと家庭のメルヒェン集』は、1812年に第一巻初版、1815年に第二巻初版が出版され、存命中に第七版（1857年）まで版を重ねました（8頁参照）。その第七版には、「メルヒェン」Märchenというジャンルで200話、「子どものための聖人伝」Kinderlegendenとして10話、合計210話が収録されています。ただし、151番を一種の重複と見なし、本当は201話と言うべきではないかという研究者もいるようです。

そもそも、民の素朴な宝としての伝承を文字にして保存することが目的だったので、『子どもと家庭のメルヒェン集』に挿絵が一枚もなかったというのもうなずけます。ところが、オランダ語訳（1820年）や英訳（1823年）の挿絵付き出版に着想を得たグリム兄弟は、1825年、自分たちで選んだ50話を「小さな版」として、7枚の挿絵付きで出版しました。その挿絵を担当したのが、グリム兄弟の末弟ルートヴィヒ・エミール・グリム（Ludwig Emil Grimm, 1790-1863）でした。

本書では、グリム兄弟が選んだ上記50話の中から、日本でもよく知られているKHM1「カエルの王様、あるいは鉄のハインリヒ」、KHM5「オオカミと七匹の子ヤギ」、KHM15「ヘンゼルとグレーテル」、KHM21「灰かぶり（シンデレラ）」、KHM50「イバラ姫（眠れる森の美女）」、KHM53「白雪姫」の6話をまず選びました。実はこの50話に含まれていなかったKHM12「ラプンツェル」も、昨今の注目度ゆえあえて含め、全部で7話仕立てとしました。この話をグリム兄弟がなぜ選ばなかったのか、各話の経緯や雑学メモを照らし合わせて考察してみてください。何かがきっと浮かび上がってくると思います。ただし、本書の原文テキストは、上記第七版（通称「決定版」）に依拠します。実際のところ第七版は、フラクトゥアという古い活字体なのですが、全体をラテン文字化しました。さらに引用符のみ現代ドイツ語仕様に改変し、明らかな誤字脱字のみ訂正しました。とはいえ、19世紀のドイツ語の古いつづり方や表記の揺らぎなどは、あえてそのままにしました。

では、本当のグリムの世界へと我々をご案内いたします。ドイツ語とドイツ文化を学びながら、お楽しみいただければ幸いです。

2024年秋



ヤーコブ(右)とヴィルヘルム(左)

編者：大野寿子・福元圭太



目次

はじめに	2
本書の紙面構成と凡例	6
語彙パートの特徴	7
『グリム童話』の改訂過程と収録話数	8
カエルの王様あるいは鉄のハインリヒ	9
Der Froschkönig oder der eiserne Heinrich (KHM1)	
オオカミと七匹の子ヤギ	29
Der Wolf und die sieben jungen Geislein (KHM5)	
ラプンツェル	43
Rapunzel (KHM12)	
ヘンゼルとグレーテル	65
Hänsel und Grethel (KHM15)	
灰かぶり	97
Aschenputtel (KHM21)	
イバラ姫	127
Dornröschen (KHM50)	
白雪姫	147
Sneewittchen (KHM53)	
参考文献一覧	185
図版出典一覧	188



文法メモ一覧

文法メモ1	縮小語尾	13
文法メモ2	hin と her	36
文法メモ3	2人称敬称の Ihr	48
文法メモ4	男(田)単数3格の -e	79
文法メモ5	「自由の3格」	102
文法メモ6	同族目的語	140
文法メモ7	どのように来る？	156

コラム一覧

コラム0	フラクトゥーア(髭文字)	8
コラム1	グリム童話と森(Wald)	27
コラム2	Märchen は童話なのか？	28
コラム3	グリム童話が改変された理由(わけ)	64
コラム4	女神から魔女へ	95
コラム5	お菓子の家のなぞ	96
コラム6	死者の化身としての鳥	126
コラム7	魔法の眠りと一時的な死	146
コラム8	大地の小人たち	183

はみだしギャラリー

1	明治期のしかけ絵本	42
2	ユーゲントシュティールの白雪姫	184

カバー挿絵：

(表紙) Edmund Dulac (1882-1953) : Aschenbrödel. In : *Brüder Grimm Märchen mit 30 farbigen Bildern von Edmund Dulac*. München (Georg W. Dietrich) 1913. (著者蔵)

(裏表紙) Arthur Rackham (1867-1939) : The Wolf and the Seven Kids. In : *The Fairy Tales of the Brothers Grimm. Illustrated by Arthur Rackham, translated by Mrs. Edger Lucas*. London (Constable & Company) 1909. (著者蔵)

グリム兄弟の肖像 (3頁)：

彫版師 Lauzarus Sichling (1812-1863) が、写真家 Hermann Biow (1804-1850) による銀板写真(1847年)をもとに、『グリムのドイツ語辞典』のために制作した銅板画、1854年。

©2024 by BGG・Bildarchiv・All rights reserved・www.grimms.de

本書の紙面構成と凡例

- ① テキスト
- ② 行数番号
- ③ 図版
- ④ 雑学メモ
- ⑤ 見出し語
- ⑥ 行数番号
見出し語がテキスト中に登場する行数を示しています。
- ⑦ 語義・解説
- ⑧ 品詞・略号
下部の一覧を参照してください。

KHMI

Der Froschkönig oder der eiserne Heinrich

① In den alten Zeiten, wo das Wünschen noch geholfen hat, lebte ein König, dessen Töchter waren alle schön, aber die jüngste war so schön, daß die Sonne selber, die doch so vieles gesehen hat, sich verwunderte so oft sie ihr ins Gesicht schien. Nahe bei dem Schlosse des Königs lag ein großer dunkler Wald, und in dem Walde unter einer alten Linde war ein Brunnen: wenn nun der Tag recht heiß war, so ging das Königskind hinaus in den Wald und setzte sich an den Rand des kühlen Brunnens: und wenn sie Langeweile hatte, so nahm sie eine goldene Kugel, warf sie in die Höhe und fieng sie wieder; und das war ihr liebstes Spielwerk.

②

③  Brunnenは、KHMI「カエルの王様」では「泉」と訳されることが多いが、KHMI24「ホシおぼさん」では「井戸」と訳される傾向にある。左の挿絵は、日本（語）感覚では、「泉」のようでも「井戸」のようでもあるのに、「噴水」も描き込まれていて興味深い（カエルはちょっと大きめ?）。

④

⑤ Froschkönig ⑥ Frosch+König カエルの王様。 ⑦
eisern[e] ⑧ 鉄の、鉄製の。

⑧ wo ⑨ 先行詞は Zeiten。関係副詞は先行詞に「場所」だけでなく「時」をとることがある。

⑥ Wünschen ⑩ 望み。動詞 wünschen(望む)の不定形の中性名詞化。
geholfen ⑪ helfen(助ける)の ⑫ 過去形
lebte ⑬ leben(生きている)の ⑭ 過去形
dessen ⑮ 男性2格, König(王)を指示する。
Töchter ⑯ Tochter(娘)の ⑰ 複数

1. オットー・フローベデ (1907-09)

- 男 男性名詞
- 女 女性名詞
- 中 中性名詞
- 複 複数形
- 縮小 縮小形
- 短縮 短縮形
- 人代 人称代名詞
- 疑代 疑問代名詞
- 不代 不定代名詞
- 指代 指示代名詞
- 相代 相互代名詞
- 関代 関係代名詞

- 関副 関係副詞
- 形 形容詞
- 副 副詞
- 前 前置詞
- 従接 従属接続詞
- 並接 並列接続詞
- 間 間投詞
- 自 自動詞
- 他 他動詞
- 再帰 再帰動詞
- esと 非人称動詞
- 助動 助動詞

- 現分 現在分詞
- 過分 過去分詞
- 過去 過去形
- 命令 命令形
- 接1 接続法1式
- 接2 接続法2式
- 人² 人の2格
- 人³ 人の3格
- 人⁴ 人の4格
- 物² 物の2格
- 物³ 物の3格
- 物⁴ 物の4格

- 事³ 事の3格
- 事⁴ 事の4格
- 比較 比較級
- 最上 最上級
- 基数 基数
- 序数 序数
- 不数 不定数詞
- 擬音 擬音語
- 擬態 擬態語
- 文メ 文法メモ

語彙パートの特徴

本書語彙パートの特徴を、いくつか挙げておきます。

※ 解説されている語彙数がきわめて豊富で、解説が懇切丁寧

本書語彙パートの最大の特徴は、拾われている語彙数の豊富さと、解説の詳しさにあります。 Kind（子ども）や Sonne（太陽）といった基本単語まで拾ってあります。なぜかと言うと：

※ 敢えて全訳を付けていない

からです。「対訳本」形式の、全訳を付けている本も多いですが、本書は翻訳の日本語を読んで分かったような気にならないように、つまり本当にドイツ語でグリム童話を読むために、敢えて全訳を付けませんでした。だから語彙パートがこのように盛りだくさんなのです。

グリム童話の原典には、今となっては古めかしい言い回しや方言、今のドイツ語とは異なるつづりの単語が頻出します。本書ではそのあたりも詳しく解説し、

1. 1998年から2006年にかけて実施された「ドイツ語新正書法」改訂との関連で、「現在では分離動詞としても用いられる」といった説明や、**gieng**は「現在では**ging**とつづる」、**todt**は「現在では**tot**とつづる」といった現代ドイツ語との違いに逐一触れました。
2. 現代ドイツ語の観点から見れば「古い用法」、「詩的な用法」、また（雅語で：）（みやび＝雅な言葉）、（方言で：）のような文体上の特徴も挙げました。
3. グリム童話に頻出する特徴的な文法事項を、「文法メモ」7つにまとめ、随所に「⇒**文×3**」などの形で指示をしてあります。
4. 単語は本文に出てくるそのままの形で拾ってあります。例えば動詞は変化形が見出し語になっており、不定形へと導かれています。
5. 形容詞は **kühl[en]** のように、変化語尾を [] でくくって見出し語にしています。
6. 本来小文字で書くものも、文の冒頭では大文字になりますが、それも本文のどの単語かわかるように、そのまま大文字で拾ってあります。

それでは、ぜひドイツ語でグリム童話の原典にチャレンジしてみてください。

コラム0 フラクトゥーア (髭文字)

ドイツ語にはフラクトゥーア (Fraktur) という古い活字体があり、16世紀半ばから20世紀初頭にかけて広く使用されていました。19世紀の出版物である『グリム童話』も、もともとはこのフラクトゥーア (通称「髭文字」) で表記されたものでした。本書では、メルヒェン7話のドイツ語タイトルを、各話の扉に髭文字で表記しています。下のアルファベット一覧表を参考に、解読してみてください。慣れればきっと楽しくなりますよ。

Fraktur 一覧表

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
Ɑ	Ɱ	Ɐ	Ɒ	ⱱ	Ⱳ	ⱳ	ⱴ	Ⱶ	ⱶ	ⱷ	ⱸ	ⱹ	ⱺ	ⱻ
a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
ⱼ	ⱋ	ⱌ	ⱍ	ⱎ	ⱏ	ⱐ	ⱑ	ⱒ	ⱓ	ⱔ	ⱕ	ⱖ	ⱗ	ⱘ
P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	Ä	Ö	Ü	
ⱞ	ⱟ	Ⱡ	ⱡ	Ɫ	Ᵽ	Ɽ	ⱥ	ⱦ	Ⱨ	ⱨ	Ⱪ	ⱪ	Ⱬ	
p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	ä	ö	ü	
Ɀ	ⱽ	Ȿ	Ɀ	ⱽ	Ȿ	Ɀ	ⱽ	Ȿ	Ɀ	ⱽ	Ȿ	Ɀ	ⱽ	
ß	ch	ck	tz											
Ɀ	ⱽ	Ȿ	Ɀ											

『グリム童話』の改訂過程と収録話数

	第一巻	第二巻	メルヒェンの収録話数【通し番号】(＋聖人伝)
初版	1812年	1815年	156【86】(第一巻)／【70】(第二巻)
第二版		1819年	161【161】(+9)
第三版		1837年	168【168】(+9)
第四版		1840年	178【178】(+9)
第五版		1843年	194【194】(+9)
第六版		1850年	200【200】(+10)
第七版 (決定版)		1857年	200／201?【200】(+10)

KHM 1

Der Froschkönig oder der eiserne Heinrich

カエルの王様あるいは鉄のハインリヒ



経緯：弟のヴィルヘルム・グリムがカッセルのヴィルト家から聞き取ったとされる。1810年のエーレンベルク手稿では25番で、タイトルが「女王と魔法をかけられた王子」だった。初版（1812年）より1番目に移動した。

Der Froschkönig oder der eiserne Heinrich

1 **I**n den alten Zeiten, wo das Wünschen noch geholfen hat,
 2 lebte ein König, dessen Töchter waren alle schön, aber die
 3 jüngste war so schön, daß die Sonne selber, die doch so vieles
 4 gesehen hat, sich verwunderte so oft sie ihr ins Gesicht schien.
 5 Nahe bei dem Schlosse des Königs lag ein großer dunkler Wald,
 6 und in dem Walde unter einer alten Linde war ein Brunnen: wenn
 7 nun der Tag recht heiß war, so ging das Königskind hinaus in den
 8 Wald und setzte sich an den Rand des kühlen Brunnens: und wenn
 9 sie Langeweile hatte, so nahm sie eine goldene Kugel, warf sie in die
 10 Höhe und fieng sie wieder; und das war ihr liebstes Spielwerk.



Brunnen は、KHM1「カエルの王様」では「泉」と訳されることが多いが、KHM24「ホレおばさん」では「井戸」と訳される傾向にある。左の挿絵は、日本（語）感覚では、「泉」のようでも「井戸」のようでもあるのに、「噴水」も描き込まれていて興味深い（カエルはちょっと大ききめ?）。

1. オットー・ウベローデ (1907-09)

Froschkönig	男	Frosch+König カエルの王様.
eisern[e]	形	鉄の, 鉄製の.
1 wo	関副	先行詞は Zeiten. 関係副詞は先行詞に「場所」だけでなく「時」をとることがある.
Wünschen	中	望み. 動詞 wünschen (望む) の不定形の中性的名詞化.
geholfen	自	helfen (助ける) の 過分
2 lebte	自	leben (生きている) の 過去
dessen	指代	男性 2 格. König (王) を指示する.
Töchter	複	Tochter (娘) の 複

3	jüngst[e]	形	jung (若い) の 最上 . <i>die jüngste</i> [Tochter].	
	daß	従接	現在のつづりは dass. ここは so ... , daß ~ 構文で「たいへん…なので〜」. 英語の so ... that ~ 構文に当たる.	
	Sonne	女	太陽.	1998年から2006年にかけての 正書法改訂で ß → ss となった.
	vieles	不代	多くのもの. 中性4格.	
4	gesehen	他	sehen (見る) の 過分	
	sich verwunderte	再帰	sich ⁴ verwundern (驚く) の 過去	
	so oft		～するたびに. 現在のつづりは sooft で 従接	
	sie	人代	ここは「太陽」を受ける. 1格.	
	ihr	人代	ここは「末娘」を受ける. 3格 (次項参照).	
	Gesicht	中	顔. 人 ³ <i>ins Gesicht scheinen</i> (次項参照) 人 ³ の顔を照らす. 人 ³ は「所有の3格」 ⇒ 文5	
	schien	自	scheinen (太陽が輝く, 光る) の 過去	
5	Nahe	形	近い. <i>nahe bei</i> 物 ³ 物 ³ の近くに.	
	Schlosse	中	城. Schloss 3格の古い形で -e が付いている ⇒ 文4	
	lag	自	liegen (横たわっている) の 過去	dunkel が元の形容詞. 語尾 が付く場合しばしば l の前の e が落ち, dunkle などとなる.
	dunkl[er]	形	暗い.	
	Wald	男	森. 次の行の Walde は Wald 3格の古い形で -e が付いている ⇒ 文4	
6	Linde	女	ボダイジュ (= <i>Lindenbaum</i>).	
	Brunnen	男	泉, 井戸, 噴水.	
7	recht	副	実に, 本当に.	
	heiß	形	暑い.	
	ging ... hinaus	自	hinaus gehen または hinaus gehen (出かける) の 過去	
	Königskind	中	König+s+Kind 王の子ども.	
8	setzte sich	再帰	sich ⁴ setzen (座る) の 過去	
	Rand	男	へり, 縁.	
	kühl[en]	形	(水が) 冷たい.	
9	Langeweile	女	退屈.	
	nahm	他	nehmen (手に取る) の 過去	
	golden[e]	形	金色の.	
	Kugel	女	毬, ボール, 球.	
	warf	他	werfen (投げる) の 過去	
10	Höhe	女	高み.	
	fieng	他	fangen (つかむ) の 過去 . 現在では fing とつづる.	
	wieder	副	再び.	
	liebst[es]	形	lieb (好きな) の 最上	
	Spielwerk	中	(ここでは:) 玩具. 現在の意味は「(オルゴールなどの) 機械仕掛」.	

1 Nun trug es sich einmal zu, daß die goldene Kugel der
 2 Königstochter nicht in ihr Händchen fiel, das sie in die Höhe
 3 gehalten hatte, sondern vorbei auf die Erde schlug und geradezu
 4 ins Wasser hinein rollte. Die Königstochter folgte ihr mit den
 5 Augen nach, aber die Kugel verschwand, und der Brunnen war tief,
 6 so tief daß man keinen Grund sah. Da fieng sie an zu weinen und
 7 weinte immer lauter und konnte sich gar nicht trösten. Und wie
 8 sie so klagte, rief ihr jemand zu „was hast du vor, Königstochter,
 9 du schreist ja daß sich ein Stein erbarmen möchte.“ Sie sah sich
 10 um, woher die Stimme käme, da erblickte sie einen Frosch,
 11 der seinen dicken häßlichen Kopf aus dem Wasser streckte.

人間と動物等との婚姻を描くストーリーを「異類婚姻譚」という。日本のメルヘン(昔話)には、動物が人間の姿に変身して、人間と結婚するタイプが多いが(例:「鶴の恩返し」), ヨーロッパでは、その動物は実は魔法にかけられた姿であり、最終的に人間の姿に戻るタイプの話が多い。

前頁の Linde (ポダイジュ) は、第三版(1837年)より加筆された単語であり、初版、第二版(1819年)には存在しない。中世のミンネザンク(Minnesang)では、恋人たちの語らいの場によくポダイジュが登場した。愛を象徴する木でもあり、王女と未来の伴侶(カエルの姿ではあるが)との出会いを予感させているようでもある。

- | | | | |
|---|----------------------|----|--|
| 1 | trug ... sich ... zu | 再帰 | sich ⁴ zulragen ((雅語で:) 出来事などが起こる)の 過去 |
| 2 | Königstochter | 女 | König + s + Tochter 王の娘, 王女。 |
| | Händchen | 中 | 小さな手. Hand (手)の 縮小 ⇒ 文メ1 |
| | fiel | 自 | fallen (落ちてくる)の 過去 |
| 3 | gehalten | 他 | halten ((方向と:) 動かして保つ, 維持する)の 過分 . 物⁴ in die Höhe halten 物⁴ を高く掲げる。 |
| | sondern | 並接 | (nicht A, sondern B の形で:) A ではなくて B. |
| | vorbei | 副 | そばを通過して。 |
| | schlug | 自 | schlagen ((方向と:) 打ち当たる)の 過去 . auf die Erde schlagen 地面に打ち当たる。 |
| | geradezu | 副 | まさに, まさしく。 |
| 4 | Wasser | 中 | 水。 |

	hinein rollte	自	hinein rollen または hineinrollen (向こう側の中へ転がる) の 過去
	folgte ... nach	自	nachfolgen ((人・物 ³)のあとを追う) の 過去
	ihr	人代	ここは「球」(Kugel) を受ける。3格。
5	Augen	複	Auge (目) の 複
	verschwand	自	verschwinden (消える) の 過去
	tief	形	深い。
6	Grund	男	底。
	sah	他	sehen (見る) の 過去
	fieng ... an	他	anfangen (始める) の 過去 。(zu 不定詞とともに:) ~し始める。 fieng は現在では fing とつづる。
	weinen	自	泣く。
7	immer lauter		ますます大声で。immer+ 比較 で「ますます〜」。lauter は laut (大声での) 比較
	sich ... trösten	再帰	sich ⁴ trösten 自らを慰める、気を紛らす。
8	klagte	自	klagen (嘆く) の 過去
	rief ... zu	自	人 ³ 事 ⁴ zurufen ((人 ³ に 事 ⁴ を) 大声で呼びかける) の 過去 。事 ⁴ に 当たるのが was 以下のせりふ。
	jemand	不代	誰かが。1格。
	hast ... vor	他	vorhaben ~しようとしている。ここは was hast du vor で「何 をしているの、どうしたの」といった意味。
9	schreist	自	schreien [泣き] 叫ぶ。
	sich ... erbarmen	再帰	sich ⁴ erbarmen 哀れむ、気の毒に思う。
	Stein	男	石。
	sah sich um	再帰	sich ⁴ umsehen (周りを見回す) の 過去
10	Stimme	女	声。
	erblickte	他	erblicken ((雅語で:) (人・物 ⁴)の姿を) 見つける、認める) の 過去
11	dick[en]	形	大きい、肥大した。
	häßlich[en]	形	醜い。
	Kopf	男	頭。
	streckte	自	strecken ((首などを) 突き出す) の 過去

文法メモ1 縮小語尾

縮小語尾 -chen または -lein は接尾辞として用いられ、「小さな〜」を表す。Tellerchen/Tellerlein「小さな皿」、Bettchen/Bettlein「小さなベッド」等。「メルヒェン」Märchen も Mär ((雅語で:) (面白い) 話、物語) の縮小形である (コラム1参照)。つづりに a, o, u, au が含まれる場合はウムラウトする。Brot → Brötchen (プチパン), Hans → Hänschen (ハンスちゃん)、やや不規則だが Magd → Mädchen (少女) 等。Hänsel und Grethel については66頁参照。

1 „Ach, du bist, alter Wasserpatscher,“ sagte sie, „ich weine über
2 meine goldene Kugel, die mir in den Brunnen hinab gefallen ist.“
3 „Sei still und weine nicht,“ antwortete der Frosch, „ich kann wohl
4 Rath schaffen, aber was gibst du mir, wenn ich dein Spielwerk
5 wieder heraufhole?“ „Was du haben willst, lieber Frosch,“ sagte
6 sie, „meine Kleider, meine Perlen und Edelsteine, auch noch die
7 goldene Krone, die ich trage.“ Der Frosch antwortete „deine
8 Kleider, deine Perlen und Edelsteine, und deine goldene Krone,
9 die mag ich nicht: aber wenn du mich lieb haben willst, und ich
10 soll dein Geselle und Spielkamerad sein, an deinem Tischlein
11 neben dir sitzen, von deinem goldenen Tellerlein essen, aus deinem
12 Becherlein trinken, in deinem Bettlein schlafen: wenn du mir das
13 versprichst, so will ich hinunter steigen und dir die goldene Kugel
14 wieder herauf holen.“ „Ach ja,“ sagte sie, „ich verspreche dir
15 alles, was du willst, wenn du mir
16 nur die Kugel wieder bringst.“



2. ウォルター・クレイン (1874)



3. ヘルマン・フォーゲル (1894)

1	bists		bist es の省略形。
	Wasserpatscher	男	Wasser + Patscher 水をばちゃばちゃはねる者。patschen (水などがばちゃばちゃはねる) から。
	weine über	自	über (人・事) ⁴ weinen (人・事) ⁴ のことを悲しんで泣く。
2	mir	人代	この mir はいわゆる「自由の3格」で、ここは「関心の3格」⇒文メ5
	hinab gefallen	自	hinab fallen (向こうへ落ちる) の 過分。現在では hinabfallen という分離動詞としても用いられる。
3	Sei	自	sein (～である) の du に対する 命令。Sei still! 静かにしなさい。
	antwortete	自	antworten (答える) の 過去
4	Rath schaffen		良い考え (方策) を与える。Rath は現在では Rat とつづる。
	gibt	他	geben 与える。
5	heraufhole	他	heraufholen 持って上がってくる。
6	Kleider	複	Kleid (服) の 複
	Perlen	複	Perle (真珠) の 複
	Edelsteine	複	Edelstein (宝石) の 複
7	Krone	女	冠。
	trage	他	tragen 身に着ける、かぶる。
9	mag	他	mögen 好きである、ほしい。ここは本動詞。
	lieb haben	他	(人) を好きである。現在では liebhaben という分離動詞としても用いられる。
10	Geselle	男	仲間。
	Spielkamerad	男	遊び友だち。
	Tischlein	中	小さなテーブル。Tisch (テーブル) の 縮小 ⇒文メ1
11	neben	前	(3格と:) 隣に。
	Tellerlein	中	小さな皿。Teller (皿) の 縮小 ⇒文メ1
	essen	自	食事をする。
12	Becherlein	中	小さなコップ。Becher (コップ) の 縮小 ⇒文メ1
	trinken	自	飲み物を飲む。
	Bettlein	中	小さなベッド。Bett (ベッド) の 縮小 ⇒文メ1
	schlafen	自	眠る。
13	verspricht	他	versprechen 約束する。
	hinunter steigen	自	下に潜る。現在では hinuntersteigen という分離動詞としても用いられる。
14	herauf holen	他	持って上がってくる。現在では heraufholen という分離動詞としても用いられる。5 heraufhole も参照。
16	wieder	副	再び。
	bringst	他	bringen 持ってくる。

Wasserpatscher はお水をばちゃばちゃする人という、姫がつけたカエルのあだ名とも思われる。既訳には、「お水ばちゃばちゃさん」「水のべっちゃんべっちゃんさん」などがあるが、他にも想像力豊かな訳語ができそうである。

1 Sie dachte aber „was der einfältige Frosch schwätzt, der sitzt im
 2 Wasser bei seines Gleichen und quackt, und kann keines Menschen
 3 Geselle sein.“

4 Der Frosch, als er die Zusage erhalten hatte, tauchte seinen Kopf
 5 unter, sank hinab und über ein Weilchen kam er wieder herauf
 6 gerudert, hatte die Kugel im Maul und warf sie ins Gras. Die
 7 Königstochter war voll Freude, als sie ihr schönes Spielwerk wieder
 8 erblickte, hob es auf und sprang damit fort. „Warte, warte,“ rief der
 9 Frosch, „nimm mich mit, ich kann nicht so laufen wie du.“ Aber
 10 was half ihm daß er ihr sein quack quack so laut nachschrie als er
 11 konnte! sie hörte nicht darauf, eilte nach Haus
 12 und hatte bald den armen Frosch vergessen, der
 13 wieder in seinen Brunnen hinab steigen mußte.

古代の自然信仰において、カエルは豊穡の象徴であり、地母神（母なる大地の神）へと捧げられた。たとえば、豊穡と穀物を司る女神ヘケト（エジプト）は、カエル頭で描かれている。成長に伴い、形状をオタマジャクシからまったく別の形姿へと変化させていくことから、進化、発展、変容の諸段階の具現化とも見なされる。このようなポジティブな解釈が存在する一方で、たとえば「ヨハネの黙示録」には、七つの災厄の六番目として、「龍の口」、「獣の口」、「偽預言者の口」から飛び出す「穢れた三つの霊」が、カエルのような形をしているという描写もある。こちらは、ネガティブに捉えられるようでもある。



4. ヘルマン・フォーゲル (1894)

1	dachte	他	denken (考える) の 過去
	einfältig[e]	形	愚鈍な、頭の単純な。
	schwätzt	他	schwätzen (くだらないことを) べちゃくちゃしゃべる。
2	bei seines Gleichen		同じような連中のところで。現在では seinesgleichen は 不代 で、1語で書く。
	quackt	自	quacken (カエル・アヒルなどが) ガーガー鳴く。現在では quakt とつづる。

	keines Menschen Geselle		どんな人間の仲間にも…ない (=Geselle keines Menschen).
4	Zusage	女	承諾の返事.
	erhalten	他	erhalten (受け取る) の 過分
	tauchte ... unter	自	untertauchen ((水中に) 潜る) の 過去
5	sank hinab	自	hinab sinken または hinabsinken ((底の方へ) 潜る) の 過去
	Weilchen	中	ほんの少しのあいだ. Weile (ひと時) の 縮小 ⇒文メ1
	kam ... herauf	自	herauf kommen または heraufkommen ((表面・水面へ) 上がって来る) の 過去
6	gerudert	副	rudern ((腕を) こくように振る) の 過分・副 . ここでは 副 として用いられている.
	Maul	中	(動物の) 口.
	warf	他	werfen (投げる) の 過去
	Gras	中	草.
			(名詞とともに:) ~でいっぱい. voll Freude 喜びでいっぱいにな って, たいそう喜んで.
7	voll	形	
8	hob ... auf	他	aufheben (持ち上げる) の 過去
	sprang ... fort	自	fortspringen (跳びはね続ける) の 過去
	Warte	自	warten (待つ) の du に対する 命令
	rief	自	rufen (叫ぶ) の 過去
9	nimm ... mit	他	mitnehmen (連れていく) の du に対する 命令
	laufen	自	走る, 駆ける.
10	was half ihm		彼にとって何の助けになっただろう. half は helfen (助ける) の 過去 . 3 格目的語を取る.
	quack quack	擬音	(カエル・アヒルなどの鳴き声:) ゲロゲロ, ガーガー. 現在は quak とつづる.
			▲ 動物の鳴き声の表現は言語によって微妙に異なる. Quak, quak (クヴァックヴァック) は, 既存の和訳では「があがあ」「ゲエコゲエコ」と訳されている. 日本語と比較すると, オノマトベがそんなに豊かではないドイツ語ではあるが, patschen (ばちゃばちゃという音をたてる), quaken (ガーガーなく) などの動詞により擬態語擬声語が細やかに表現される.
	so laut ... als er konnte		(彼に) できる限り大声で.
	laut	副	大声で.
	nachschrie	自	人 ³ nachschreien ((人 ³ に向かって) 叫ぶ) の 過去
11	hörte ... darauf	自	auf ⁴ hören (事 ⁴ に耳を傾ける) の 過去 . dar+auf で「その事に」だが, 内容的には「カエルの懸命な呼びかけに」.
	eilte	自	eilen (急ぐ) の 過去
12	bald	副	間もなく, すぐに.
	arm[en]	形	可哀そうな, 憐れな.
	vergessen	他	vergessen (忘れる) の 過分
13	hinab steigen	自	下に潜る. 現在では hinabsteigen という分離動詞としても用いられる.

kommen は様態を示す動詞の過去分詞とともに用いられ「～の様態で来る」という意味になる.
例: geflogen kommen 飛んで (飛行機で) 来る. ここは gerudert harauf kommen (または heraufkommen) で「腕をこくように振りながら水面へ上がって来る」⇒文メ7

KHM 53

Sneewittchen

白雪姫



エーレンベルク手稿（1810年）では43番、ヤーコプがマリー・ハッセンプフルークから聞き取った話とされる。初版（1812年）より53番で、フェルディナント・ジーベルトの話により改変。第二版（1819年）でもハインリヒ・レオポルト・シュタインの話により書き替えられる。

Sneewittchen

1 **E**s war einmal mitten im Winter, und die Schneeflocken fielen
 2 wie Federn vom Himmel herab, da saß eine Königin an
 3 einem Fenster, das einen Rahmen von schwarzem Ebenholz hatte,
 4 und nähte. Und wie sie so nähte und nach dem Schnee aufblickte,
 5 stach sie sich mit der Nadel in den Finger, und es fielen drei
 6 Tropfen Blut in den Schnee. Und weil das Rothe im weißen Schnee
 7 so schön aussah, dachte sie bei sich „hätt ich ein Kind so weiß wie
 8 Schnee, so roth wie Blut, und so schwarz
 9 wie das Holz an dem Rahmen.“ Bald
 10 darauf bekam sie ein Töchterlein, das war
 11 so weiß wie Schnee, so roth wie Blut, und
 12 so schwarzhaarig wie Ebenholz, und ward
 13 darum das Sneewittchen
 14 (Schneeweißchen) genannt.
 15 Und wie das Kind geboren
 16 war, starb die Königin.



81. ウォルター・クレイン (1882)



82. オットー・ウベローデ (1907-09)

1	mitten	副	(前置詞句とともに:) ~の真ん中(真っ最中)に。 <i>mitten im Winter</i> 真冬に。
	Schneeflocken	複	Schnee+Flocken (舞い落ちる)雪, 雪片。FlockenはFlocke(一ひら, 薄片)の複
	fielen ... herab	自	herab fallen または herabfallen (落ちて来る)の過去
2	Federn	複	Feder ((鳥の)羽毛, 羽)の複
	Himmel	男	天, 空。
	saß	自	sitzen (座っている)の過去

	Königin	女	女王.
3	Fenster	中	窓.
	Rahmen	男	枠, フレーム. ここは「(黒檀でできた)窓枠」(=Fensterrahmen)のこと.
	schwarz[em]	形	黒い, 黒みがかった.
	Ebenholz	中	黒檀 [の木].
4	nähte	自	nähen (縫物(裁縫)をする)の <u>過去</u>
	Schnee	男	雪.
	aufblickte	自	aufblicken (見上げる)の <u>過去</u>
5	stach	自	stechen (刺す)の <u>過去</u> . <i>sich³ in den Finger stechen</i> うっかり自分の指を刺す. <i>sich³</i> は「所有の3格」⇒文メ5
	Nadel	女	針.
	Finger	男	指.
6	Tropfen	複	Tropfen (一滴, 滴り)の <u>複</u>
	Blut	中	血.
	Rothe	中	赤い色, 赤さ. 形容詞 roth の中性名詞化. 現在では Rote とつづる.
	weiß[en]	形	白い.
7	schön	形	美しい.
	aussah	自	aussehen (…のように見える, 見栄えが…である)の <u>過去</u>
	dachte	自	denken (考える)の <u>過去</u>
	bei sich		bei sich ³ 一人で, 心中. <i>bei sich³ denken</i> 一人(心中で)熟慮する.
	hätt	他	haben (持っている)の <u>接2</u> . ふつう hätte とつづる. 非現実の願望で「持っていればなあ, あればなあ」.
	Kind	中	子ども.
8	roth	形	赤い. 現在では rot とつづる.
9	Holz	中	木.
	Bald	副	間もなく.
10	darauf	副	そのあと.
	bekam	他	bekommen (得る, 手に入れる)の <u>過去</u>
	Töchterlein	中	小さな娘. Tochter (娘)の <u>縮小</u> ⇒文メ1
12	schwarzhaarig	形	髪は黒い, 黒髪の. ...haarig の ... に色の形容詞が入る. 例: grauhaarig グレーの髪の
	ward	自	werden ((受動の助動詞:)~される)の <u>過去</u> wurde の詩的な形.
13	darum	副	それゆえ.
14	Schneeweißchen	中	雪白姫, 白雪姫. 原意は「雪のように白い子ども」. -chen は <u>縮小</u> ⇒文メ1
	genannt	他	nennen (名づける, ~と呼ばれる)の <u>過分</u>
15	wie	従接	~したときに (=als).
	geboren	他	gebären ((子を)産む)の <u>過分</u>
16	starb	自	sterben (死ぬ)の <u>過去</u>

1 Über ein Jahr nahm sich der König eine andere Gemahlin.
2 Es war eine schöne Frau, aber sie war stolz und übermühtig,
3 und konnte nicht leiden daß sie an Schönheit von jemand sollte
4 übertroffen werden. Sie hatte einen wunderbaren Spiegel, wenn sie
5 vor den trat und sich darin beschaute, sprach sie

6 „Spieglein, Spieglein an der Wand,
7 wer ist die schönste im ganzen Land?“

8 so antwortete der Spiegel

9 „Frau Königin, ihr seid die schönste im Land.“

10 Da war sie zufrieden, denn sie wußte daß der Spiegel die Wahrheit sagte.

11 Sneewittchen aber wuchs heran, und wurde immer schöner, und
12 als es sieben Jahr alt war, war es so schön, wie der klare Tag, und
13 schöner als die Königin selbst. Als diese einmal ihren Spiegel fragte

14 „Spieglein, Spieglein an der Wand,
15 wer ist die schönste im ganzen Land?“

16 so antwortete er

17 „Frau Königin, ihr seid
18 die schönste hier,
19 aber Sneewittchen ist
20 tausendmal schöner als ihr.“

詩行1, 2行目は
Wand, Land,
3, 4行目はhier,
ihrで脚韻を踏ん
でいる。このよう
に2行ずつ踏む韻
を「平韻」という。

実母が死ぬ場面
が加えられたのは
第二版から。美し
さに固執する母親
(王妃)は、もとも
とは実母だったこ
となる。



83. オットー・ウベローデ (1907-09)

1	nahm	他	nehmen (取る, 自分のものにする)の <u>過去</u> . sich ³ eine Frau <i>nehmen</i> ある女性を妻に娶る.
	König	男	王, 王様.
	Gemahlin	女	(雅語で:) 奥様, 奥方.
2	stolz	形	高慢な, プライドの高い.
	übermüthig	形	思い上がった. 現在では <i>übermutig</i> とつづる.
3	leiden	他	耐える, 許容する. ... <i>konnte nicht leiden</i> [,] <i>daß</i>を許すことができなかった.
	Schönheit	女	美しさ, 美.
	jemand	不代	jemand (誰か)の3格. 本来は jemandem であるが -em という語尾を書かないことがある.
4	übertroffen	他	人物 ⁴ an 事 ³ übertreffen (事 ³ において人物 ⁴ より優れている, 優っている)の <u>過分</u>
	wunderbar[en]	形	不思議な.
	Spiegel	男	鏡.
5	trat	自	treten ((方向と:) ~へ向かって歩く, 歩み出る)の <u>過去</u>
	darin	副	その中を.
	beschaute	他	beschauen ((方言で:) しげしげと見る, 観察する)の <u>過去</u> . ここは sich ⁴ (自分自身を)が目的語.
	sprach	自	sprechen (話す)の <u>過去</u>
6	Spieglein	中	小さな鏡. Spiegel (鏡)の <u>縮小</u> ⇒文×1
	Wand	女	壁.
7	schönst[e]	形	schön (美しい)の <u>最上</u> . <i>die schönste</i> [Frau] 最も美しい女性.
	Land	中	国.
8	antwortete	自	antworten (答える)の <u>過去</u>
9	ihr	人代	あなた. 単数1格. 現在は2人称敬称の「あなた」は Sie であるが, 古くは ihr (ふつうは大文字の Ihr) も用いられた ⇒文×3
10	zufrieden	形	満足した, 満ち足りた.
	wußte	他	wissen (知っている)の <u>過去</u>
	Wahrheit	女	真実, 本当のこと.
11	wuchs ... heran	自	heranwachsen (成長する)の <u>過去</u>
	immer schöner		ますます美しく. immer+ <u>比較</u> で「ますます～」.
12	Jahr	複	年齢, 歳. 現在は Jahre とつづる. ここは古い用法で語尾の -e が欠けている.
	klar[e]	形	(空が)晴れた.
13	selbst	指代	～自身.
	einmal	副	ある時, 一度.
	fragte	他	fragen (尋ねる)の <u>過去</u>
20	tausendmal	副	1000倍.

ここは ... sollte übertroffen werden (凌駕されるなどということになれば)という語順になっているが, ふつうは ... übertroffen werden sollte.

*詩行1, 2行目は14, 15行目を指す。詩行3, 4行目は17-18行, 19-20行目を指す。

1 Da erschreck die Königin, und ward gelb und grün vor Neid. Von
 2 Stund an, wenn sie Sneewittchen erblickte, kehrte sich ihr das
 3 Herz im Leibe herum, so haßte sie das Mädchen. Und der Neid
 4 und Hochmuth wuchsen wie ein Unkraut in ihrem Herzen immer
 5 höher, daß sie Tag und Nacht keine Ruhe mehr hatte. Da rief sie
 6 einen Jäger und sprach „bring das Kind hinaus in den Wald, ich
 7 wills nicht mehr vor meinen Augen sehen. Du sollst es tödten,
 8 und mir Lunge und Leber zum Wahrzeichen mitbringen.“ Der
 9 Jäger gehorchte und führte es hinaus, und als er den Hirschfänger
 10 gezogen hatte und Sneewittchens unschuldiges Herz durchbohren
 11 wollte, fieng es an zu weinen und sprach „ach,
 12 lieber Jäger, laß mir mein Leben; ich will in den
 13 wilden Wald laufen und nimmermehr wieder heim
 14 kommen.“ Und weil es so schön war, hatte der Jäger
 15 Mitleiden und sprach „so lauf hin, du armes Kind.“



84. Hirschfänger

タイトルであり女の子の名でもある Sneewittchen は Schneeweischen (雪白ちゃん) の北ドイツ方言。ただしエーレンベルク手稿でのタイトルは、標準ドイツ語で Schneeweischen と記され Schneewitchen も並記されており、さらに Unglückskind (不運な子ども) とも記されていた。

1	erschreck	目	erschrecken (驚く) の [過去]。現在では erschrak とつづる。
	gelb und grün vor Neid		嫉妬のあまり [顔色が] 黄色くなったり緑色になったり。Neid (嫉妬) の前の vor は「～のあまり」。
	Von Stund an		(雅語で:) この時以降 (以来)。Stund は Stunde (時, 時点), von ... an は「…以来」。von Stund an は成句的言い回し。
2	erblickte	他	erblicken ((雅語で:) (人物 ⁹)の姿を) 見つける, 認める) の [過去]
	kehrte sich ... herum	再帰	sich ⁴ herum/kehren (ひっくり返る, 裏返る) の [過去]
3	Herz	中	心臓。
			gelb (黄色い), grün (緑の, 緑色の)。体調の急な不良や精神の急な動揺を表す場合, しばしば gelb, grün または blau (青い, 蒼い) が用いられる。

	Leibe	男	(雅語で:) 身体, 肉体. Leib 3 格の古い形で -e がついている ⇒文メ4
	haßte	他	hassen (憎む, ひどく嫌う) の 過去
	Mädchen	中	女の子, 少女. 本来は Magd (乙女) の 縮小 ⇒文メ1
4	Hochmuth	男	高慢, 尊大, 思い上がり. 現在では Hochmut とつづる.
	Unkraut	中	雑草.
5	höher	副	hoch (高く) の 比較
	Tag und Nacht		昼も夜も, 昼夜を分かつたず, 絶えず.
	Ruhe	女	平穩, 心の平安.
	rief	他	rufen (呼び寄せる) の 過去
6	Jäger	男	狩人, 猟師.
	bring ... hinaus	他	hinaus bringen または hinaus bringen (外へ連れて行く) の du に対する 命令
	Wald	男	森.
7	wills		will es の省略形.
	Augen	複	Auge (目) の 複
	tödtten	他	殺す. 現在では töten とつづる.
8	Lunge	女	肺.
	Leber	女	肝臓.
	Wahrzeichen	中	目印, (本当であるという) 証拠.
	mitbringen	他	mit bringen 持って来る.
9	gehorchte	自	gehören (従う, 言うことを聞く) の 過去
	führte ... hinaus	他	hinaus führen または hinaus führen (外へ連れ出す) の 過去
	Hirschfänger	男	Hirsch + Fänger (鹿猟などに用いる) 猟刀, 山刀.
10	gezogen	他	ziehen (取り出す, 引き抜く) の 過分. ここは「鞆から引き抜く」.
	unschuldig[es]	形	純真な, 無垢の.
	durchbohren	他	durch bohren (物 ⁴ に) 穴を開ける.
11	fieng ... an	他	anfangen (始める) の 過去. (zu 不定詞[句]とともに:) ~し始める. fieng は現在では fing とつづる.
12	laß	他	人 ³ 物 ⁴ lassen (人 ³ に 物 ⁴ を与えておく, 認める) の du に対する 命令
	Leben	中	命.
13	wild[en]	形	自然のままの, 未開拓の.
	laufen	自	歩く, 歩いて行く.
	nimmermehr	副	決して~ない.
	heim kommen	自	家(故郷)に帰る. 現在では heim kommen という分離動詞としても用いられる.
15	Mitleiden	中	同情, 憐み. 動詞 mitleiden (同情する) の不定形の中性的名詞化.
	lauf hin	自	hin laufen (走り去る) の du に対する 命令
	arm[es]	形	可哀そうな, 憐れな.

1 „Die wilden Thiere werden dich bald gefressen haben“ dachte er,
 2 und doch wars ihm als wär ein Stein von seinem Herzen gewälzt,
 3 weil er es nicht zu tödten brauchte. Und als gerade ein junger
 4 Frischling daher gesprungen kam, stach er ihn ab, nahm Lunge und
 5 Leber heraus, und brachte sie als Wahrzeichen der Königin mit.
 6 Der Koch mußte sie in Salz kochen, und das boshafte Weib aß sie
 7 auf und meinte sie hätte Sneewittchens Lunge und Leber gegessen.
 8 Nun war das arme Kind in dem großen Wald mutterseelig
 9 allein, und ward ihm so angst, daß es alle Blätter an den
 10 Bäumen ansah und nicht wußte wie es sich helfen sollte.



85

古い自然信仰では
 Lunge (肺) には息
 吹と魂が、Leber (肝
 臓) には生命力と魂
 が宿るとされている。
 ただしこは、Lで
 頭韻を踏む中世から
 の慣用表現でもある
 (初版より存在)。

85, 86. フランツ・ユットナー (1905)

「とがった石をこえ、
 イバラをこえて走る」
 という艱難辛苦の表
 現は初版から、「木
 の葉一枚一枚を眺
 める」という寄り辺な
 さの表現は第二版
 から加えられた。



86

大野 寿子 (おおの・ひさこ)

九州大学大学院文学研究科独文学専攻
博士後期課程修了、テュービンゲン大学、
ゲッティンゲン大学留学、愛知教育大学専
任講師を経て、現在、東洋大学文学部教授、
博士(文学)、ドイツ文学・伝承学研究、

主要著書：『黒い森のグリムードイ
ツ的なフォークロア』(郁文堂、2008年)、編
著『カラー図説 グリムへの扉』(勉誠出版、
2015年)、監修書『いっしょに楽しむ おは
なしのえほん』シリーズ(高橋書店、2021-
24年)。

福元 圭太 (ふくもと・けいた)

大阪外国語大学ドイツ語学大学院修士
課程修了、フンボルト大学、ボン大学留学、
ミュンヘン大学日本センター講師、現在、
九州大学大学院言語文化研究院教授、九州
大学博士(文学)、ドイツ文学・思想研究、

主要著書：『「青年の国」ドイツとトーマ
ス・マン』(九州大学出版会、2005年)、『賦
霊の自然哲学—フェヒナー、ヘッケル、ド
リーシュ』(九州大学出版会、2020年)、『ア
ポロン独和辞典 第4版』(共編著、同学社、
2022年)。

© Hisako Ono, Keita Fukumoto, 2024, Printed in Japan

原書で読む『グリム童話』 その語彙と背景

2024年11月25日 初版第1刷発行

著者 大野 寿子／福元 圭太
制作 ツディブックス株式会社
発行者 田中 稔
発行所 株式会社 語研
〒101-0064
東京都千代田区神田猿樂町 2-7-17
電話 03-3291-3986
ファクス 03-3291-6749
組版 ツディブックス株式会社
印刷・製本 倉敷印刷株式会社

ISBN978-4-87615-445-6 C0084

書名 ゲンショデヨム『グリムドウウ』ソノゴイトハイケイ
著者 オオノ ヒサコ／フクモト ケイタ
著作者および発行者の許可なく転載・複製することを禁じます。

定価：本体 2,500 円＋税(10%) [税込定価 2,750 円]
乱丁本、落丁本はお取り替えいたします。

株式会社語研



語研ホームページ <https://www.goken-net.co.jp>

本書の感想は
スマホから↓





原書で読む『グリム童話』その語彙と背景

ためし読みはここまでです。

Webページへ

